

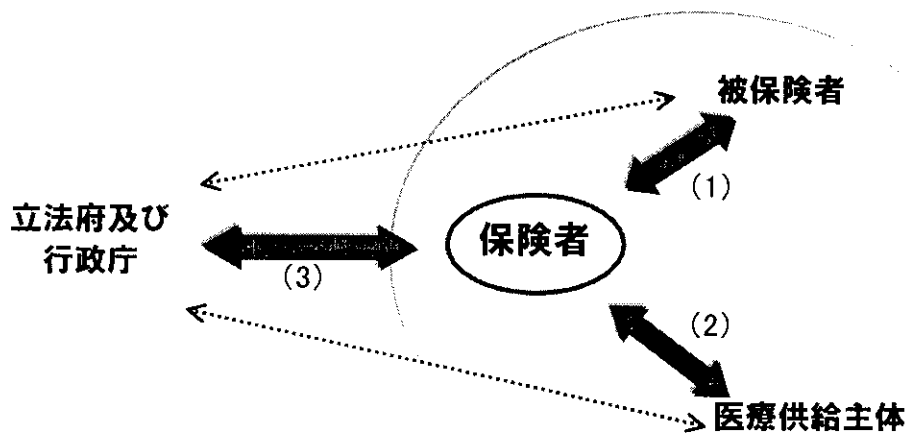
第4章 まとめ

1. 今後の研究課題

これまでは、3 億件もの膨大なレセプト情報データを年度ごとに個人名寄せすることで、データ提供都道府県ごとに 1 年当たりどの程度の医療費投下が行われているか、それは、どのような患者属性及び医療機関でその傾向が見られるかの分析を行ったが、政府管掌健康保険の都道府県別保険者再編をにらみ、保険者機能の強化をデータ分析によりどう実現できるかが今後の研究課題となる。

保険者は、下図のとおり医療保険制度の 3 当事者(保険者、被保険者、医療供給主体)及びシステム全体の企画管理などを担当する立法府及び行政庁という 4 者によって構成されている。

図 25 保険者を取り巻く当事者の概念図⁶



保険者機能の項目としては、諸外国の状況を踏まえ幅広く捉えた場合、以下の項目が整理されている。

(1) 保険者－被保険者関係

- 保険者による被保険者の選択(被保険者の要件)
- 被保険者による保険者の選択
- 被保険者の利益代表権(現行法上の該当条文なし)
- 保険料(算定方法、賦課及び徴収方法)
- 保険給付(方法、範囲、水準)
- 保険事故の確認(現行法上の該当条文なし)
- 予防給付、ヘルス事業
- 医療供給に関する情報提供(現行法上の該当条文なし)

(2) 保険者－医療供給主体関係

- 医療供給主体の選択
- 診療報酬等の契約内容
- 診療内容及び報酬の審査、診療報酬の支払
- 医療供給、危険選択に関する情報収集(現行法上の該当条文なし)

⁶ 出典は、『医療制度改革と保険者機能』山崎泰彦・尾形裕也編著 東洋経済新報社より。(保険者機能の項目部分を含む)

(3) 保険者—立法府及び行政庁

- 保険者の設立(法人格、設立への関与、組織構成)
- 保険者の解散
- 組織及び財政の運営・管理
- 行政による一般的監督

特に、上記保険者機能の●項目を意識し、『保険者の能力・機能強化と統計情報利用の関連に関する分析』及び『レセプト統計の集積による保険者機能強化方法に関する検討』の観点から、下記分析を今後行う予定である。

【需要側の分析】

- ① 患者の地域別病院集中度統計の作成
- ② 多受診基本統計の作成
- ③ 多受診を考慮した患者の病院集中度統計の作成
- ④ 高額療養費支給対象分の実態把握
- ⑤ 患者の受診パターンの類型化に関する分析

【供給側の分析】

- ① 療機関別平均入院期間統計の作成
- ② 医療機関別入院期間別医療費統計の作成
- ③ 医薬分業の時系列的な推移に関する分析
- ④ 診療パターンの変化が医療費に与える影響の推計

これらは、保険者機能の強化を更に取り組む中で、今後法整備が進むと考えられる、例えば保険者による医療機関との直接契約(個別医療機関ごとの単価契約)に鑑み、レセプト情報データをさらに有効な情報資源としてどう活用できるかを試みることに、さらには、保険者の財政安定のため、医療費(支出)抑制のため、加入者に対してどのような根拠に基づき、どう指導・管理を含む情報発信ができるかを提言できるものであると位置付けている。

厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）

「個票データを利用した医療・介護サービスの需給に関する研究」

分担研究報告書

「社会医療診療行為別調査報告」の個票データによる社会的入院に関する考察

—昭和 61 年から平成 12 年の時系列的な考察—

分担研究者 宮里尚三 国立社会保障・人口問題研究所

一般的には 65 歳以上で入院期間が 180 日以上の患者を社会的入院と呼ぶことが多い。しかし、180 日以上入院している患者の中でも例えば 1 日あたりの医療費が高い患者もいれば、低い患者もいる。同じ入院期間の患者であっても医療費の高い患者は少なくとも医学的な治療が必要不可欠といえるであろう。しかし、医療費の低い患者は本当に医学的な治療が必要かどうか考える余地がある。本稿では、入院患者に対して入院期間でなく医療費がある基準より低いかどうかで社会的入院の定量的な検討を行った。

A 研究目的

本稿の目的は「社会医療診療行為別調査報告」の個票データを用いて社会的入院を定量的に検討を加えることである。一般的には 65 歳以上で入院期間が 180 日以上の患者を社会的入院と呼ぶことが多い。しかし、180 日以上入院している患者の中でも例えば 1 日あたりの医療費が高い患者もいれば、低い患者もいる。本稿の目的は、入院患者に対して入院期間でなく医療費がある基準より低いかどうかで社会的入院の定量的な検討を加えることである。

B. 研究方法

厚生労働省『社会医療診療行為別調査

報告』のマイクロデータに基づき、入院期間でなく医療費がある基準より低いかどうかで社会的入院の定量的な検討を行った。

（倫理面への配慮）

マイクロデータを使用の際には、個人が特定されないように十分留意するとともに、個人情報流出のないように細心の注意を払う。

C 研究結果

研究結果を簡単にまとめると次のようになる。

- 一概に 65 歳以上で 180 日入院している患者といっても 1 日当たりにかかる

医療費には 12 万円以上かかる患者も
いれば約 3 千円程度でおさまる患者も
いるということが分かった。

- 通常の社会的入院のだと平成 6 年以降
は徐々に値が低下しているが 1 日当た
り医療費の平均値やメディアンを用い
ると徐々に社会的入院患者が低下して
いるとは言えない。
- 1 日当たり医療費の平均値やメディ
アンの基準で社会的入院を算出した値の
中で 180 日以内の入院患者の比率が高
まっていることが分かった。

D. 考察

通常の社会的入院の水準と 1 日当たり医
療費の平均値やメディアンの基準値を用い
た社会的入院の水準との乖離がここ数年開
いていることが確認された。これは、1 日
当たり医療費の平均値やメディアンの基準
で社会的入院を算出した値の中で 180 日以
内の入院患者の比率が高まっていることに
よるものである。

E 結論

時系列的分析を通して、通常の社会的入
院の水準と 1 日当たり医療費の平均値やメ
ディアンの基準値を用いた社会的入院の水
準との乖離がここ数年開いていることが確
認された。このことは社会的入院を単に入
院期間だけで判断することの危険性を示唆

するものと言える。

F. 研究発表

なし。

G. 知的所有権の取得状況

なし。

厚生労働省厚生科学研究費補助金政策科学推進研究事業

「個票データを利用した医療・介護サービスの需給に関する研究」

「社会医療診療行為別調査報告」の個票データによる

社会的入院に関する考察*

—昭和61年から平成12年の時系列的な考察—

2003年3月31日

国立社会保障・人口問題研究所
研究員 宮里尚三

* 本稿は平成14年度厚生科学研究費補助金政策科学推進事業「個票データを利用した医療・介護サービスの需給に関する研究」の研究成果の一部である。研究会のメンバーである植村尚史氏（国立社会保障・人口問題研究所副所長）、尾形裕也氏（九州大学医学部教授）、松本勝明氏（国立社会保障・人口問題研究所部長）、金子能宏氏（国立社会保障・人口問題研究所室長）、泉田信行氏（国立社会保障・人口問題研究所研究員）、佐藤雅代氏（国立社会保障・人口問題研究所研究員）、山本克也氏（国立社会保障・人口問題研究所研究員）からは大変貴重はコメントを頂いた。記して謝意を表したい。しかし、残された本稿の誤りは著者の責任であることは言うまでもない。

1. はじめに

社会的入院¹とは一般に病院や診療所などの医療施設に180日以上入院している患者のことを指すことが多い。社会的入院は厚生行政の重要な課題であったし、現時点でも重要な課題であることに変わりはない。一方、介護保険制度がはじまって2年近くが経つ。介護保険導入の目的の一つには、社会的入院と呼ばれる患者が介護サービスを利用することによって病院や診療所などの医療施設に長期間入院し続けることを減らそうという目的が少なからずあると考えられる。このように社会的入院は介護保険との関連からも興味深いトピックであるが、社会的入院に関して統計的あるいは定量的分析を行った研究は多くない²。

本稿の目的は「社会医療診療行為別調査報告」の個票データを用いて社会的入院を定量的に検討を加えることである。社会的入院に関しては先にも述べたように入院期間が180日以上を社会的入院と呼ぶことが多い。しかし、180日以上入院している患者の中でも例えば1日あたりの医療費が高い患者もいれば、低い患者もいる。同じ入院期間の患者であっても医療費の高い患者は少なくとも医学的な治療が必要不可欠といえるであろう。しかし、医療費の低い患者は本当に医学的な治療が必要かどうか考える余地がある。本稿の目的は、入院患者に対して入院期間でなく医療費がある基準より低いかどうかで社会的入院の定量的な検討を加えることである。この方法は府川(1995)が用いた手法である。宮里(2002)において府川(1995)の手法を応用し社会的入院を分析しているが、使用しているデータが平成12年度の「社会医療診療行為別調査報告」のみのデータである。そのため時系列的な分析が行われていない。本稿では昭和62年から平成12年の「社会医療診療行為別調査報告」のデータを用いて社会的入院の分析を行う。また、分析は府川(1995)の手法を応用するかたちで行う。

本稿の構成は次のとおりである。2章では本稿で用いる社会的入院の基準について述べ、3章で「社会医療診療行為別調査報告」の個票データを用いた社会的入院の定量的分析の結果を述べる。最後に4章でまとめを述べる。

2. 社会的入院の基準について

本稿では社会的入院を集計データではなく「社会医療診療行為別調査報告」の個票データを用いて社会的入院を定量的に分析することである。「社会医療診療行為別調査報告」の個票データを用いることのメリットとして患者の入院期間だけでなく、例えば1ヶ月にかかった医療費や入院期間に行われた診療行為などを個人ベースで知ることができることである。そのメリットを活かして本稿では、社会的入院を1ヶ月にかかる医療費がある一定

¹ ここでは入院期間で社会的入院を定義付けしたが、社会的入院の概念は「入院治療の必要がなくなったにもかかわらず、家庭に介護者がいないなどの非医学的理由で入院している状態」のことを言う。

² 社会的入院に関しての定量的分析を行っているのは研究には二木(1995)、府川(1995)、丸

値より低いかどうかで社会的入院を定義することにする。社会的入院を医療費がある基準値より低いかどうかで判断する手法は府川（1995）によって行われた手法である。したがって本稿は府川（1995）の手法³を「社会医療診療行為別調査報告」の個票データに応用した分析ということになる。

本稿では次の3つの基準より医療費が低いかどうかで社会的入院を判断し定量的分析を行うことにする。

- 1日当たり医療費の平均値
- 1日当たり医療費のメディアン
- 1日当たり医療費のモード

ここで、平均値やメディアン、モードを用いるといったが対象となるサンプルは（1）全入院患者、（2）65歳以上の入院患者、（3）65歳以上で180日以上入院している患者を用いる。したがってパターンとしては以下の9つが考えられる。

（1）全入院患者の

- 1日当たり医療費の平均値
- 1日当たり医療費のメディアン
- 1日当たり医療費のモード

（2）65歳以上の入院患者の

- 1日当たり医療費の平均値
- 1日当たり医療費のメディアン
- 1日当たり医療費のモード

（3）65歳以上で180日以上入院している患者の

- 1日当たり医療費の平均値
- 1日当たり医療費のメディアン
- 1日当たり医療費のモード

山（1995）があげられる。

³ 府川（1996）における基準は、ケース a. 360日以上入院していた者全員の平均値、ケース b. 360日以上入院していた者のうち1日当たり医療費が「ケース a の85歳以上の平均値」未満の者のみの平均値、ケース c. 180日以上360日未満入院していた者全員の平均値、ケース d. 180日以上360日未満入院していた者のうち1日当たり医療費が「ケース c の85歳以上の平均値」未満の者のみの平均値、の4基準である。

このような基準で社会的入院を判断する手法には次のようなメリットがあると考えられる。それは入院期間を 180 日以上という日数によるのではなく医学的治療が必要か必要でないかという観点から社会的入院を判断することがある程度可能になるということである。180 日以上入院している患者の中にも医学的治療が本当に必要不可欠な患者もいるであろう。逆に 180 日以内の入院患者の中には医学的治療をそれほど必要としない患者もいるであろう。したがって本稿のような基準で社会的入院を判断することによって入院患者を医学的治療が必要か必要でないかという観点からある程度判断することが出来ると思われる。

また、本稿では 1 日あたりの医療費の平均値やメディアン、モードを用いて社会的入院を分析するが、1 日あたり医療費とはレセプトに記載されている総点数を診療日数で割った値のことである。「社会医療診療行為別調査報告」は 1 ヶ月単位のレセプトである。また調査は 6 月 1 日から 6 月 30 日の期間の審査分であるから、例えば 1 ヶ月入院していたとしても 6 月 1 日から 6 月 30 日入院していた場合と 6 月 15 日から 7 月 14 日まで入院した場合とでは同じ 1 ヶ月入院したケースでも医療費が大きく異なる。このようにレセプトに記載される総医療費が入院の時期に大きく異なるため、総医療費を診療日数で割ってやることで 1 日あたり医療費を算出し社会的入院を分析することにした。

3. 定量的分析の結果

この章では「社会医療診療行為別調査報告」の昭和 62 年から平成 12 年度の個票データ⁴を用いて社会的入院者の定量的分析を行うことが目的である。社会的入院の定量的分析を行う前に入院患者の医療費についての記述統計量を見ておくことにする。

記述統計量を見たのが表 1.1、表 1.2、表 1.3 である。表 1.1 は入院患者の全サンプルの記述統計量である。一方、表 1.2 は 65 歳以上の入院患者のサンプルの記述統計量である。そして表 1.3 は 65 歳以上でかつ 180 日以上入院している入院患者の記述統計量である。

ここで 65 歳以上の入院患者の記述統計を見てみる。表 1.2 の平成 12 年の最大値をみると 20 万 5313 点であるから 65 歳以上の入院患者の中には 1 日当たり最大で 200 万円以上の医療費がかかっている患者がいることが分かる。平成 12 年は最大値が他の年よりかなり高いので平成 12 年から過去 10 年間の最大値の平均をとってみると 11 万 8403.2 点であり、金額になおすと約 120 万円である。次に平成 12 年から過去 10 年間の平均値の平均をとってみると 2016.428 であり、金額になおすと約 2 万円である。このことから 1 日当たり 2 万円程度は平均的に 65 歳以上の入院患者にかかるということが分かる。

さて、表 1.3 は 65 歳以上の入院患者で 180 日以上入院している患者の医療費に関するものである。このケースは通常社会的入院に用いられている定義である。ここで、平成 12 年から過去 10 年間の最大値の平均値をとってみると 1 万 2592.76 点であるから 1 日当たり最

⁴ 「社会医療診療行為別調査報告」は 6 月審査分であるので、入院患者では 1 ヶ月にかかった医療費ということになる。

大で 12 万円以上の医療費がかかった患者がいるということである。また平均値は 1060.256 点であるから 1 日当たりで見ると平均的に 1 万以上の医療費がかかることが分かる。ここで 1 日当たり 12 万円以上の医療費が必要な患者は明らかに医学的治療が必要な患者であろう。したがって 65 歳以上の患者で入院期間が 180 日以上を一律に社会的入院と定義することは問題があると思われる。図 1 は平成 11 年の 65 歳以上でかつ 180 日以上入院していた患者の医療費をヒストグラムにしたものである⁵。図 1 から 65 歳以上で 180 日以上入院していた患者の 1 日当たりの医療費の分布は低い医療費の階級に多くは固まっているが中には高額な医療費がかかる患者もいることが分かる。

ここでの記述統計、特に表 1.2 や表 1.3 から分かることは一概に 65 歳以上で 180 日入院している患者といっても 1 日当たりにかかる医療費には 12 万円以上かかる患者もいれば約 3 千円程度でおさまる患者もいるということが分かる⁶。医療費が 1 日当たり 12 万円以上かかる患者は医学的治療が必要不可欠であろう。このような患者はたとえば家族等の受け入れ準備があつたとしても退院できるとは思えない。したがってこのような患者を社会的入院にカウントするのは適当ではないであろう。このことは 65 歳以上で 180 日以上入院している患者を一概に社会的入院と定義することの問題点を浮き彫りにしてくれる。

[表 1.1、表 1.2、表 1.3 挿入]

[表 2 挿入]

[図 1 挿入]

さて以下では先ほど本稿でも用いる社会的入院の基準（1）～（3）の値をもとに社会的入院者の定量的な把握を時系列的に試みる。さて、社会的入院に関する定量的な把握に関する若干の説明を行っておく。

表 3.1 は（1）全入院患者の 1 日当たり医療費の平均、メディアン、モードの値より医療費が低い患者を社会的入院としたケースである。その値から 180 以内の入院患者を除いたものが表 3.2 である。表 3.3 は全入院患者の 1 日当たり医療費の平均、メディアン、モードの値より医療費が低い患者を社会的入院とした場合、180 日以内の入院患者がどの程度の比

⁵ 平成 12 年の個票データの図を示さなかったのは、平成 12 年の入院期間には 30 日以上、90 日以上というカテゴリーがあり、それらのカテゴリーには 180 日以上入院患者が含まれる可能性がある。そのため平成 12 年のデータからは 65 歳以上で 180 日以上入院患者を厳密には特定できないので、ヒストグラムには平成 12 年のデータを用いなかった。平成 12 年以前は 30 日以上や 90 日以上のカテゴリーはないので 65 歳以上で 180 日以上入院患者を特定することが出来る。

⁶ 65 歳以上、180 日以上入院患者の平成 12 年から過去 10 年間の最小値の平均をとると 296.8027 点であり、金額になおすと約 3000 円である。

率を占めているのか、180 日以上入院患者がどの程度比率を占めているのかを現したものである。

[表 3.1、表 3.2、表 3.3 挿入]

表 4.1 は (2) 65 歳以上の入院患者の 1 日当たり医療費の平均、メディアン、モードの値より医療費が低い患者を社会的入院としたケースである。その値から 180 以内の入院患者を除いたものが表 4.2 である。表 4.3 は 65 歳以上の入院患者の 1 日当たり医療費の平均、メディアン、モードの値より医療費が低い患者を社会的入院とした場合、180 日以内の入院患者がどの程度の比率を占めているのか、180 日以上入院患者がどの程度比率を占めているのかを現したものである。

[表 4.1、表 4.2、表 4.3 挿入]

表 5.1 は (3) 65 歳以上で 180 日以上入院している患者の 1 日当たり医療費の平均、メディアン、モードの値より医療費が低い患者を社会的入院としたケースである。その値から 180 以内の入院患者を除いたものが表 5.2 である。表 5.3 は 65 歳以上で 180 日以上入院にしている患者の 1 日当たり医療費の平均、メディアン、モードの値より医療費が低い患者を社会的入院とした場合、180 日以内の入院患者がどの程度の比率を占めているのか、180 日以上入院患者がどの程度比率を占めているのかを現したものである。

[表 5.1、表 5.2、表 5.3 挿入]

さて次に表 6.1、表 6.2、表 6.3 を見ることにする。表 6.1、表 6.2、表 6.3 はそれぞれ (1)、(2)、(3) の基準で社会的入院を算出したものをすべての入院患者数で割った値を時系列的に示したものである。また表 6.1、表 6.2、表 6.3 のいずれにも 65 歳以上で 180 日以上入院している通常用いられる社会的入院患者の値も同時に示してある。まず表 6.1 であるが、(1) の基準で社会的入院を算出してやると平均値を用いた場合、メディアンを用いた場合、いずれも通常の社会的入院より高い比率で推移することになる。モードを用いると年によって高かったり低かったりと一定の推移が見られない⁷。つぎに表 6.2 であるが、(2) の基準で社会的入院を算出してやると平均値を用いた場合、メディアンを用いた場合、いずれも通常の社会的入院より高い比率で推移することになる。これは表 6.1 と同じである。またモードを用いた場合も同様に年によって高かったり低かったりと一定ではない。つぎ

⁷ モードは最も頻度の高い階級値のことを指す。モードの値は平均やメディアンにくらべ年によって変動が大きいと考えられる。そのためにモードを用いて社会的入院を定量的に把握しようとすると年によるばらつきが大きくなってしまう。

に表 6.3 であるが、(3) の基準で社会的入院を算出してやると平均値を用いた場合、メディアンを用いた場合でほぼ通常の社会的入院と同じ水準で推移することになった。ただし平均値を用いた場合が若干高めで推移し、メディアンを用いた場合が若干低めで推移している。またモードを用いると表 6.1、表 6.2 と同様に年によって高かったり低かったりと一定の推移が見られない。

[表 6.1、表 6.2、表 6.3 挿入]

表 6.1、表 6.2、表 6.3 の値をグラフにしたのが図 2.1、図 2.2、図 2.3 である。図 2.1、図 2.2 の特徴として、平均値を用いた場合とメディアンを用いた場合の社会的入院の推移が通常の社会的入院と平成 6 年以降、若干異なっていることが挙げられる。通常の社会的入院のだと平成 6 年以降は徐々に値が低下しているが平均値やメディアンを用いると徐々に値が低下しているというのは難しい。次に図 2.3 の特徴としては、平均値を用いた場合とメディアンを用いた場合の社会的入院の推移が通常の社会的入院と平成 10 年以降、若干異なっていることが挙げられる。通常の社会的入院だと平成 10 年以降も値が低下しているが平均値やメディアンを用いると平成 10 年、平成 11 年と値が低下しているとは言えない。また、平成 12 年の値の低下の程度も通常の社会的入院にくらべ低下の程度は大きくない。

[図 2.1、図 2.2、図 2.3 挿入]

表 7.1、表 7.2、表 7.3 の値は表 6.1、表 6.2、表 6.3 の値からそれぞれ 180 日以上入院患者を抽出した値である。また図 3.1、図 3.2、図 3.3 はそれぞれ表 7.1、表 7.2、表 7.3 の値をグラフにしたものである⁸。表 7.1～表 7.3、図 3.1～図 3.3 から分かることは 180 日以上入院患者を抽出すると通常の社会的入院の推移とほぼ同じ動きをしていることが分かる。

[表 7.1、表 7.2、表 7.3 挿入]

[図 3.1、図 3.2、図 3.3 挿入]

[表 8.1、表 8.2、表 8.3 挿入]

ここで、(1)～(3)の基準で社会的入院を算出し、その算出した値を 180 日以内の入院患者と 180 日以上入院患者に分けた場合の値は表 3.3、表 4.3、表 5.3 である。180 日以内の入院患者をグラフにしたのが図 4.1、図 4.2、図 4.3 である。図 5.1～図 5.3 から (1) から (3) の基準で社会的入院を算出した値の中で 180 日以内の入院患者の比率が高まっ

⁸ ただし、モードを用いた値は年によっての変動が大きいためグラフには示さなかった。

ていることが分かる。

[図 4.1、図 4.2、図 4.3 挿入]

5. まとめ

本稿では「社会医療診療行為別調査報告」の個票データを用いて（1）全入院患者の1日当たり医療費の平均、メディアン、モードの値より医療費が低い患者を社会的入院とするケース。（2）65歳以上の入院患者の1日当たり医療費の平均、メディアン、モードの値より医療費が低い患者を社会的入院とするケース、（3）65歳以上で180日以上入院している患者の1日当たり医療費の平均、メディアン、モードの値より医療費が低い患者を社会的入院とするケースにわけて社会的入院の定量的分析を行った。またこのような基準で算出した値を180日以内の入院患者と180日以上入院患者に分けた場合でも分析を行った。

時系列的分析を通して、通常の社会的入院の水準と1日当たり医療費の平均値やメディアン¹の基準値を用いた社会的入院の水準との乖離がここ数年開いていることが確認された。このことは社会的入院を単に入院期間だけで判断することの危険性を示唆するものと言える。

参考文献

- 二本立(1995)『日本の医療費 国際比較の視点から』医学書院。
府川哲夫(1995)「老人医療における社会的入院についての統計的アプローチ」『医療経済研究』Vol.2, pp.47-54
丸山桂(1995)「公的介護保険の導入による介護費用への影響」『季刊社会保障研究』Vol.31(2), pp.176-188
宮里尚三(2002)「社会医療診療行為別調査報告を用いた社会的入院に関する考察」『個票データを利用した医療・介護サービスの需要に関する研究 平成13年度研究報告書』(厚生科学研究費補助金政策科学推進研究事業)

表1.1 記述統計 1

	平均値	標準誤差	最小値	最大値	サンプル数
62	1356.569	1376.469	123	92188	31772
63	1426.453	1555.68	153.75	92614.5	33671
1	1435.162	1532.885	203.5	97365	36689
2	1560.97	1655.926	127	79322	31997
3	1586.143	1729.425	127	121847	34025
4	1772.725	1886.81	231.667	56299.5	32690
5	1610.805	2019.183	132	199136	31044
6	2034.055	2504.35	151	195682	53284
7	2060.878	2842.329	151	192165	40759
8	2238.729	2781.749	11.26667	108047.5	41636
9	2344.889	3142.208	147.1935	266930	41955
10	2348.164	3147.318	165	245221	42672
11	2458.111	3088.21	165	117129	53593
12	2737.522	3457.214	155.3333	205313	62893

注)記述統計1は全入院患者のサンプルである。

表1.2 記述統計 2

	平均値	標準誤差	最小値	最大値	サンプル数
62	1323.249	1290.289	216.5	42623	15823
63	1361.283	1565.465	153.75	92614.5	16889
1	1395.192	1596.295	203.5	97365	18575
2	1516.976	1715.634	127	79322	14505
3	1545.076	1418.448	127	43967.33	15716
4	1785.173	2006.441	251	56299.5	15372
5	1618.559	2394.574	132	199136	16287
6	1948.775	2479.44	151	110011	25824
7	1897.054	2618.973	151	128937	20205
8	2071.298	2745.538	11.26667	108047.5	20666
9	2235.554	2997.752	256.1667	100323	20953
10	2223.233	3069.469	165	114869	21014
11	2282.403	3109.761	165	117129	25390
12	2557.155	3659.007	155.3333	205313	28434

注)記述統計2は65歳以上の入院患者のサンプルである。

表1.3 記述統計 3

	平均値	標準誤差	最小値	最大値	サンプル数
62	904.0284	535.7733	248.1	11219.36	6551
63	900.0182	537.875	173.0323	13797.62	6767
1	933.0987	520.2679	285	12846	7663
2	946.6398	557.0073	199.8571	18263.71	5322
3	984.7421	552.5182	367.5484	10487.13	5780
4	980.2187	486.3796	386	14083.67	5202
5	1019.047	497.7072	265.8333	8382.4	6136
6	1110.877	518.4964	151	21003.5	9516
7	973.7929	482.2566	151	9034.667	6966
8	1042.965	561.5687	316.8387	16745	6808
9	1070.448	573.7128	354	12960.25	6481
10	1116.562	569.8726	229.7097	14165	6068
11	1139.871	492.8651	299.8387	8588.818	7252
12	1167.727	392.6971	446.2581	10477.17	4923

注1)記述統計3は65歳以上で180日以上入院患者のサンプルである。

注2)平成12年の患者数では入院期間の区分における31日以上、

表2 入院患者数の推移

	患者数 1	患者数 2	患者数 3
62	31772	15823	6551
63	33671	16889	6767
1	36689	18575	7663
2	31997	14505	5322
3	34025	15716	5780
4	32690	15372	5202
5	31044	16287	6136
6	53284	25824	9516
7	40759	20205	6966
8	41636	20666	6808
9	41955	20953	6481
10	42672	21014	6068
11	53593	25390	7252
12	62893	28434	4923

注1) 患者数1はすべての入院患者数。

注2) 患者数2は65歳以上の入院患者数。

注3) 患者数3は65歳以上、180日以上の入院患者数。

注4) 平成12年の患者数3では入院期間の区分における31日以上、90日以上というものは含めていない。

表3. 1 社会的入院者数の推移 1A

	平均1	メディアン1.1	モード1.1	メディアン1.2	モード1.2	メディアン1.3	モード1.3	メディアン1.4	モード1.4
62	11431	8322	1500	8270	1536	8508	1536	8508	3706
63	12239	9080	3149	9121	2054	8902	2591	8902	3829
1	13437	9928	2793	9859	2842	10116	2377	9415	3539
2	10414	7787	2266	7768	2143	7602	2143	7602	2143
3	11042	8260	3606	8234	1741	8333	2212	7842	2212
4	11074	8048	2670	8043	1495	7838	2099	7838	2099
5	12049	8386	1799	8360	1937	8360	2382	9048	2382
6	19842	14968	11525	14968	2837	15271	12159	15271	14408
7	15471	11933	4026	11950	8902	12025	8710	11574	8710
8	15599	12216	8627	12189	8627	12047	8277	12384	9135
9	15719	12048	3348	12079	3369	12137	8309	11803	8309
10	15708	11905	6969	11902	8037	11902	7853	11902	7853
11	19500	14888	8174	14909	8229	15071	9327	14662	9327
12	21815	16984	14463	16967	9026	16791	7833	17221	8793

注1)メディアン1.1、モード1.1は階級の幅を1としている。メディアン1.2、モード1.2は階級の幅を10としている。

メディアン1.3、モード1.3は階級の幅を50としている。メディアン1.4、モード1.4は階級の幅を100としている。

注2)人数には65歳以下の入院患者は含まれていない。

表3. 2 社会的入院者数の推移 1B

	平均1	メディアン1.1	モード1.1	メディアン1.2	モード1.2	メディアン1.3	モード1.3	メディアン1.4	モード1.4
62	5949	4962	1066	4940	1092	5037	1092	5037	2468
63	6218	5355	2118	5371	1385	5274	1761	5274	2564
1	7003	5898	1856	5867	1886	5986	1593	5649	2337
2	4969	4371	1421	4363	1351	4309	1351	4309	1351
3	5341	4685	2243	4674	1084	4714	1396	4516	1396
4	4986	4314	1581	4313	908	4203	1260	4203	1260
5	5703	4345	1102	4331	1176	4331	1415	4720	1415
6	9228	8255	6199	8225	1555	8336	6643	8336	7401
7	6760	6248	2399	6251	4969	6266	4840	6166	4840
8	6644	6158	4753	6156	4753	6121	4496	6197	5036
9	6341	5902	1870	5906	1885	5916	4507	5853	4507
10	5916	5326	3364	5325	3973	5325	3853	5325	3853
11	7217	6469	3815	6472	3847	6502	4468	6423	4468
12	7739	4785	4701	4784	3044	4782	2375	4787	2897

注1)社会的入院患者数の推移1Aから180日以内の入院患者を除いたもの

注2)メディアン1.1、モード1.1は階級の幅を1としている。メディアン1.2、モード1.2は階級の幅を10としている。

メディアン1.3、モード1.3は階級の幅を50としている。メディアン1.4、モード1.4は階級の幅を100としている。

表3. 3 180日以内、180日以上 の比率

	average		median	
	180日以内	180日以上	180日以内	180日以上
62	48.0%	52%	40.4%	59.6%
63	49.2%	51%	41.0%	59.0%
1	47.9%	52%	40.6%	59.4%
2	52.3%	48%	43.9%	56.1%
3	51.6%	48%	43.3%	56.7%
4	55.0%	45%	46.4%	53.6%
5	52.7%	47%	48.2%	51.8%
6	53.5%	47%	44.8%	55.2%
7	56.3%	44%	47.6%	52.4%
8	57.4%	43%	49.6%	50.4%
9	59.7%	40%	51.0%	49.0%
10	62.3%	38%	55.3%	44.7%
11	63.0%	37%	56.5%	43.5%
12	64.5%	35%	71.8%	28.2%

表4. 1 社会的入院者数の推移 2A

	平均 2	メディアン2.1	モード2.1	メディアン2.2	モード2.2	メディアン2.3	モード2.3	メディアン2.4	モード2.4
62	11233	7916	3167	7890	3242	7890	3706	8508	3706
63	11909	8437	3149	8386	2591	8267	2591	8902	3829
1	13231	9289	4646	9289	4770	9415	4770	9415	3539
2	10240	7237	2846	7281	2143	7052	2143	7602	2143
3	10867	7853	3860	7842	3606	7842	3953	7842	3953
4	11114	7678	2610	7631	3295	7838	2847	7838	2099
5	12076	8143	2186	8085	2995	8360	1618	7732	2382
6	19460	12897	11525	12897	11658	13328	12159	13328	13328
7	15088	10096	2458	10123	8902	10442	8710	10442	8710
8	15079	10316	8627	10385	8627	10675	8227	10675	9135
9	15346	10458	6429	10419	7774	10419	8309	10958	8309
10	15244	10489	6969	10517	7853	10430	7853	10430	7853
11	18901	12663	8174	12675	8229	12805	9327	12805	9327
12	21109	14183	9006	14169	9026	13976	8793	14463	8793

注1)メディアン1.1、モード1.1は階級の幅を1としている。メディアン1.2、モード1.2は階級の幅を10としている。
メディアン1.3、モード1.3は階級の幅を50としている。メディアン1.4、モード1.4は階級の幅を100としている。
注2)人数には65歳以下の入院患者は含まれていない。

表4. 2 社会的入院者数の推移 2B

	平均 2	メディアン2.1	モード2.1	メディアン2.2	モード2.2	メディアン2.3	モード2.3	メディアン2.4	モード2.4
62	5900	4777	2128	4769	2181	4769	2468	5037	2468
63	6151	5054	2118	5031	1761	4795	1761	5274	2564
1	6954	5598	3034	5598	3114	5649	3114	5649	2337
2	4947	4166	1816	4187	1351	4073	1351	4309	1351
3	5318	4517	2384	4516	2243	4516	2436	4516	2436
4	4990	4121	1547	4093	1924	4203	1689	4203	1260
5	5708	4208	1314	4176	1731	4331	989	3990	1415
6	9187	7138	6199	7138	6299	7401	6643	7401	7401
7	6717	5628	1580	5647	4969	5800	4840	5800	4840
8	6596	5585	4753	5614	4753	5723	4496	5723	5036
9	6319	5500	3392	5485	4183	5485	4507	5656	4507
10	5884	5064	3364	5070	3853	5043	3853	5043	3853
11	7088	6022	3815	6025	3847	6053	4468	6053	4468
12	4880	4681	3031	4681	3044	4672	2897	4701	2897

注1)社会的入院患者数の推移2-Aから180日以内の入院患者を除いたもの
注2)メディアン1.1、モード1.1は階級の幅を1としている。メディアン1.2、モード1.2は階級の幅を10としている。
メディアン1.3、モード1.3は階級の幅を50としている。メディアン1.4、モード1.4は階級の幅を100としている。

表4. 3 180日以内、180日以上 の比率

	average		median	
	180日以内	180日以上	180日以内	180日以上
62	47.5%	53%	39.7%	60.3%
63	48.3%	52%	40.1%	59.9%
1	47.4%	53%	39.7%	60.3%
2	51.7%	48%	42.4%	57.6%
3	51.1%	49%	42.5%	57.5%
4	55.1%	45%	46.3%	53.7%
5	52.7%	47%	48.3%	51.7%
6	52.8%	47%	44.7%	55.3%
7	55.5%	45%	44.3%	55.7%
8	56.3%	44%	45.9%	54.1%
9	58.8%	41%	47.4%	52.6%
10	61.4%	39%	51.7%	48.3%
11	62.5%	38%	52.4%	47.6%
12	76.9%	23%	67.0%	33.0%

表5. 1 社会的入院者数の推移 3A

	平均3	メディアン3.1	モード3.1	メディアン3.2	モード3.2	メディアン3.3	モード3.3	メディアン3.4	モード3.4
62	7280	5099	1598	5099	1536	4707	1536	5660	1536
63	7621	5182	2247	5231	2322	4990	2591	6044	3829
1	8410	5922	3509	5899	3539	5899	4770	5899	3539
2	5935	4273	2846	4217	2504	3897	2143	3897	2143
3	6522	4740	1793	4759	2739	4759	3075	3953	2212
4	5737	4611	2670	4662	2710	4895	2847	4895	2099
5	6828	5567	3896	5531	1618	5358	1618	5358	2382
6	9416	9104	11525	9135	11658	9269	12159	9269	10960
7	6795	6372	8825	6391	8902	6512	8710	5929	8710
8	6514	6437	8627	6486	8627	6609	8227	6004	7420
9	6351	6184	6429	6241	7774	6111	8309	6780	8309
10	6632	6444	6969	6409	7004	6409	7853	6409	7853
11	8228	7908	8174	7945	8229	8424	9327	8424	9327
12	8180	8000	9006	8050	9026	7833	8793	8793	8793

注1)メディアン1.1、モード1.1は階級の幅を1としている。メディアン1.2、モード1.2は階級の幅を10としている。
メディアン1.3、モード1.3は階級の幅を50としている。メディアン1.4、モード1.4は階級の幅を100としている。

注2)人数には65歳以下の入院患者は含まれていない。

表5. 2 社会的入院者数の推移 3B

	平均3	メディアン3.1	モード3.1	メディアン3.2	モード3.2	メディアン3.3	モード3.3	メディアン3.4	モード3.4
62	4466	3280	1133	3280	1092	3066	1092	3577	1092
63	4678	3382	1523	3408	1578	3263	1761	3851	2564
1	5177	3824	2312	3807	2337	3807	3114	3807	2337
2	3532	2661	1816	2630	1588	2440	1351	2440	1351
3	3815	2890	1121	2902	1725	2902	1938	2436	1396
4	3181	2598	1581	2625	1610	2735	1689	2735	1260
5	3606	3067	2207	3049	989	2968	989	2968	1415
6	4899	4761	6199	4773	6299	4840	6643	4840	5822
7	3691	3484	4918	3494	4969	3548	4840	3284	4840
8	3442	3404	4753	3429	4753	3502	4496	3189	4012
9	3336	3234	3392	3271	4183	3194	4507	3614	4507
10	3154	3034	3364	3018	3389	3018	3853	3018	3853
11	3847	3623	3815	3644	3847	3964	4468	3964	4468
12	2556	2459	3031	2488	3044	2375	2897	2897	2897

注1)社会的入院患者数の推移3-Aから180日以内の入院患者を除いたもの

注2)メディアン1.1、モード1.1は階級の幅を1としている。メディアン1.2、モード1.2は階級の幅を10としている。
メディアン1.3、モード1.3は階級の幅を50としている。メディアン1.4、モード1.4は階級の幅を100としている。

表5. 3 180日以内、180日以上 of 比率

	average		median	
	180日以内	180日以上	180日以内	180日以上
62	38.7%	61%	35.7%	64.3%
63	38.6%	61%	34.7%	65.3%
1	38.4%	62%	35.4%	64.6%
2	40.5%	60%	37.7%	62.3%
3	41.5%	58%	39.0%	61.0%
4	44.6%	55%	43.7%	56.3%
5	47.2%	53%	44.9%	55.1%
6	48.0%	52%	47.7%	52.3%
7	45.7%	54%	45.3%	54.7%
8	47.2%	53%	47.1%	52.9%
9	47.5%	53%	47.7%	52.3%
10	52.4%	48%	52.9%	47.1%
11	53.2%	47%	54.2%	45.8%
12	68.8%	31%	69.3%	30.7%

表6.1 社会的入院患者の比率の推移 1A

	通常	平均	メディアン	モード
62	20.6%	36.0%	26.2%	4.7%
63	20.1%	36.3%	27.0%	9.4%
1	20.9%	36.6%	27.1%	7.6%
2	16.6%	32.5%	24.3%	7.1%
3	17.0%	32.5%	24.3%	10.6%
4	15.9%	33.9%	24.6%	8.2%
5	19.8%	38.8%	27.0%	5.8%
6	17.9%	37.2%	28.1%	21.6%
7	17.1%	38.0%	29.3%	9.9%
8	16.4%	37.5%	29.3%	20.7%
9	15.4%	37.5%	28.7%	8.0%
10	14.2%	36.8%	27.9%	16.3%
11	13.5%	36.4%	27.8%	15.3%
12	7.8%	34.7%	27.0%	23.0%

注)メディアン、モードとも階級の幅が1の時の値を用いている。

表6.2 社会的入院患者の比率の推移 2A

	通常	平均	メディアン	モード
62	20.6%	35.4%	24.9%	10.0%
63	20.1%	35.4%	25.1%	9.4%
1	20.9%	36.1%	25.3%	12.7%
2	16.6%	32.0%	22.6%	8.9%
3	17.0%	31.9%	23.1%	11.3%
4	15.9%	34.0%	23.5%	8.0%
5	19.8%	38.9%	26.2%	7.0%
6	17.9%	36.5%	24.2%	21.6%
7	17.1%	37.0%	24.8%	6.0%
8	16.4%	36.2%	24.8%	20.7%
9	15.4%	36.6%	24.9%	15.3%
10	14.2%	35.7%	24.6%	16.3%
11	13.5%	35.3%	23.6%	15.3%
12	7.8%	33.6%	22.6%	14.3%

注)メディアン、モードとも階級の幅が1の時の値を用いている。

表6.3 社会的入院患者の比率の推移 3A

	通常	平均	メディアン	モード
62	20.6%	22.9%	16.0%	5.0%
63	20.1%	22.6%	15.4%	6.7%
1	20.9%	22.9%	16.1%	9.6%
2	16.6%	18.5%	13.4%	8.9%
3	17.0%	19.2%	13.9%	5.3%
4	15.9%	17.5%	14.1%	8.2%
5	19.8%	22.0%	17.9%	12.5%
6	17.9%	17.7%	17.1%	21.6%
7	17.1%	16.7%	15.6%	21.7%
8	16.4%	15.6%	15.5%	20.7%
9	15.4%	15.1%	14.7%	15.3%
10	14.2%	15.5%	15.1%	16.3%
11	13.5%	15.4%	14.8%	15.3%
12	7.8%	13.0%	12.7%	14.3%

注)メディアン、モードとも階級の幅が1の時の値を用いている。

表7. 1 社会的入院患者の比率の推移 1B

	通常	平均	メディアン	モード
62	20.6%	18.7%	15.6%	3.4%
63	20.1%	18.5%	15.9%	6.3%
1	20.9%	19.1%	16.1%	5.1%
2	16.6%	15.5%	13.7%	4.4%
3	17.0%	15.7%	13.8%	6.6%
4	15.9%	15.3%	13.2%	4.8%
5	19.8%	18.4%	14.0%	3.5%
6	17.9%	17.3%	15.5%	11.6%
7	17.1%	16.6%	15.3%	5.9%
8	16.4%	16.0%	14.8%	11.4%
9	15.4%	15.1%	14.1%	4.5%
10	14.2%	13.9%	12.5%	7.9%
11	13.5%	13.5%	12.1%	7.1%
12	7.8%	12.3%	7.6%	7.5%

注)メディアン、モードとも階級の幅が1の時の値を用いている。

表7. 2 社会的入院患者の比率の推移 2B

	通常	平均	メディアン	モード
62	20.6%	18.6%	15.0%	6.7%
63	20.1%	18.3%	15.0%	6.3%
1	20.9%	19.0%	15.3%	8.3%
2	16.6%	15.5%	13.0%	5.7%
3	17.0%	15.6%	13.3%	7.0%
4	15.9%	15.3%	12.6%	4.7%
5	19.8%	18.4%	13.6%	4.2%
6	17.9%	17.2%	13.4%	11.6%
7	17.1%	16.5%	13.8%	3.9%
8	16.4%	15.8%	13.4%	11.4%
9	15.4%	15.1%	13.1%	8.1%
10	14.2%	13.8%	11.9%	7.9%
11	13.5%	13.2%	11.2%	7.1%
12	7.8%	7.8%	7.4%	4.8%

注)メディアン、モードとも階級の幅が1の時の値を用いている。

表7. 3 社会的入院患者の比率の推移 3B

	通常	平均	メディアン	モード
62	20.6%	14.1%	10.3%	3.6%
63	20.1%	13.9%	10.0%	4.5%
1	20.9%	14.1%	10.4%	6.3%
2	16.6%	11.0%	8.3%	5.7%
3	17.0%	11.2%	8.5%	3.3%
4	15.9%	9.7%	7.9%	4.8%
5	19.8%	11.6%	9.9%	7.1%
6	17.9%	9.2%	8.9%	11.6%
7	17.1%	9.1%	8.5%	12.1%
8	16.4%	8.3%	8.2%	11.4%
9	15.4%	8.0%	7.7%	8.1%
10	14.2%	7.4%	7.1%	7.9%
11	13.5%	7.2%	6.8%	7.1%
12	7.8%	4.1%	3.9%	4.8%

注)メディアン、モードとも階級の幅が1の時の値を用いている。

表8.1 平均、メディアン、モードの値(全入院患者)

	平均	メディアン	モード
62	1356.569	984	599
63	1426.453	1016	672
1	1435.162	1035	668
2	1560.97	1123	707
3	1568.143	1143	780
4	1772.725	1221	738
5	1610.805	1151.5	662
6	2034.055	1380	1225
7	2060.878	1338	740
8	2238.729	1473	1170
9	2344.889	1536	769
10	2348.164	1601	1137
11	2458.111	1628	1137
12	2737	1872	1600

注)メディアン、モードとも階級の幅が1の時の値を用いている。

表8.2 平均、メディアン、モードの値(65歳以上の入院患者)

	平均	メディアン	モード
62	1323.249	952	677
63	1361.283	964	672
1	1395.192	990	746
2	1516.976	1067	739
3	1545.076	1101	795
4	1785.173	1184	734
5	1618.559	1135	687
6	1948.775	1280	1225
7	1897.054	1178	638
8	2071.298	1275	1170
9	2235.554	1353	1074
10	2223.233	1407	1137
11	2282.403	1389	1137
12	2557.155	1572	1209

注)メディアン、モードとも階級の幅が1の時の値を用いている。

表8.3 平均、メディアン、モードの値(65歳以上、180日以上入院患者)

	平均	メディアン	モード
62	904.0284	770	603
63	900.0182	758	637
1	933.0987	801	699
2	949.6389	824	739
3	984.7421	848.5	673
4	980.2187	875	738
5	1019.047	912	800
6	1110.877	1088	1225
7	973.7929	938	1106
8	1042.965	1036	1170
9	1070.448	1055	1074
10	1116.562	1103.5	1137
11	1139.871	1128	1137
12	1167.727	1158	1209

注)メディアン、モードとも階級の幅が1の時の値を用いている。